

# 平成18年度 第1回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成18年5月18日（木）18:30～20:15

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席委員 12名……柴崎、多田、伊藤、井上、小野、角田、加納、佐藤、鷹野、増田、増淵、有森  
事務局 5名……YMC Aよこすかコミュニティサポート 安田、細田、高村  
市民生活課 小座野、堀井

## 1 報告事項

4月からの新スタッフ（安田さん、細田さん）よりあいさつ

次第に沿って報告を行った。

- ・カラーコピー機の導入についてコピー機の交換時期に向けて事務局で導入の可否も含めて検討を進めることとした。
- ・団体の活動報告を簡単にできる「プチ展示コーナー」を設置することとした。

## 2 審議事項

(1) 市民公益活動団体、(2) 夏の市民活動体験スタンプラリーについて、提案どおり承認した。

(3) のたろんフェア2007について、4つのプロジェクトをまとめた事業名を「のたろんプロジェクト」とすることとした。

その他提案として、延長コードを貸し出し備品に加えることとした。

## [意見概要]

### ◆ 利用者の声（カラーコピー機の導入）について

#### (増田委員)

カラーコピー機は以前から利用者の希望があるのに導入できないのは何故か。予算の枠がある事は分かるが、何とかできないか。

#### (多田委員)

カラーコピー機は導入に金がかかる上に、カラーコピー自体の料金が高いため導入に見合う利用があるか分からない。

#### (事務局)

カラーコピー機の導入を全く考えていないわけではない。カラーコピーの代わりとして情報コーナーのパソコンからプリントアウトすると無料になるので検討しなくてはならないと考えている。また、コピー機はリース期間が残っていてすぐ交換できない。コピー機の交換時期に合わせて新しい提案をしていく予定ではいるが、今の時点では予算等の問題もあり、すぐにやるとは答えられない状況である。市の予算の中でも優先順位がある。カラーコピー機にかかるコストや利用率などの研究をする必要がある。

#### (伊藤委員)

パソコンからのプリントアウトは何枚刷っても無料なのか。

#### (事務局)

大量に刷る場合はインクも持参していただくことになっているが、何枚刷っているか分からない。それが消耗品費を逼迫させる原因の一つとなっている。そうしたことから、今後パソコンからのプリントアウトも有料化していかざるを得ないと考えている。

#### (伊藤委員)

サポートセンターでは現在、印刷が原紙1枚100円で安価にできるので、カラーコピーも同じように安くできると思われがちだが、市が設置しているから安いというわけではない。料金について慎重に検討していく必要がある。

(事務局)

プリンターにはコインベンダーがついていないので受付で管理することになってしまう。カラーコピー機等の設置と併せて検討していきたいと考えている。カラーコピーとカラープリンターが併設している機種で、パソコンから出力しても、コピーをしてもどちらでも課金できるシステムもあるが、非常に高価。課金方式と併せて今後の課題とさせてほしい。

(柴崎委員)

まなびかんではパソコンからの印刷は有料。どういう管理をしているか仕組みを確認したらどうか。

(増田委員)

あまりにも低料金の設定は利用者にとってはよいが、他の施設とのバランスも考えないといけない。

(事務局)

印刷機の使用料は市民活動の活性化のため安く抑えたいが、原紙1枚で何万枚も刷ったりするように、限度を超えて利用されてしまうことがある。それにより消耗品費が当初の予想以上に増えてしまっている。一般の利用者には影響しない範囲で、ある程度抑止力のある値段の設定が必要ではないかと考えている。機器の入れ替えのタイミングや他の施設との料金設定、課金方式の調整など、市全体として考えていかなければならない。その点で導入に時間がかかっている。

#### ◆ 夏の市民活動体験スタンプラリーについて（及び 簡易展示コーナー設置の提案）

(事務局)

今年も8月5日に開催する「HONCHOすかつこカーニバル」に市民活動体験ブースを提供する。また、新しい試みとして「団体コマースル募集」ということで、夏のスタンプラリーの時期に活動体験できる企画がない団体のPRをレポート集に載せることにした。

(柴崎委員)

春の活動体験では、参加団体が展示コーナーで活動報告をした。夏にも是非そういった呼びかけをしてほしい。

(増田委員)

常設で簡単に活動報告ができる場所を作るべきである。活動報告をしている団体は一握り。活動の内容、やった結果を見せることが団体の一番のPRになる。展示コーナーほど立派なものでなく、常設でもっと簡単な報告ができるスペースを作りたい。

(事務局)

活動の報告等も掲示板で出来るが、今までそういう使い方をしていなかった。報告を義務にする必要はないと思うが、サポートセンターから団体へ提案することはできる。

(鷹野委員)

掲示板に新聞コーナーのように、お礼コーナーとか報告コーナーを作ればよいのではないかと。

(事務局)

最初にサンプルを作ってもらって展示すれば、利用者に分かりやすいし周知になる。貸出し用のA1パネルを活用できる。

(伊藤委員)

活動報告を展示することが団体のPRになると分かっているが、展示コーナー程の広さを1つの団体でレイアウトするとなると準備も大掛かりになってしまい大変。A1のパネル程度の大きさなら気軽にできる。

(柴崎委員)

展示コーナーにA1パネルを1、2枚飾るだけでも、特に違和感はないと思う。

**(事務局)**

展示コーナーは予約で埋まってしまうので、「プチ展示コーナー」として簡単に利用できるような場所を別に設定したい。どこにするかはサポートセンター側で決めさせていただきたい。先ほど鷹野委員が言っていたような掲示板を活用したものにするか、別の場所にするか、使い方等も合わせて事務局から提案したい。

**(多田委員)**

大きなコーナーで展示するか、小さなコーナーで展示するか、他の団体と抱き合わせにするかなどのコーディネートはサポートセンターに任せたい。ただし、展示の準備は今までどおり団体が行うものとしたい。

**◆ 市制100周年記念事業「のたろんフェア2007」について**

**(事務局)**

100周年記念事業として、4つの事業を進めていく。広報などでプロジェクトメンバーを募集したところ13人集まった。運営委員も4つの事業にそれぞれ関わっていただきたい。5月20日(土)16時から第1回の全体会議を開く。メンバーの顔合わせと事業目的などの確認を行った後、各プロジェクトに分かれて今後の打ち合わせをする。また、4つのプロジェクトの発表の場として、3月中旬に「(仮称) のたろんフェア完成イベント」を開催したいと考えている。

**(鷹野委員)**

企画書では、のたろんフェアの中で4つのプロジェクトを計画しているのか、100周年記念事業の1つがのたろんフェアなのか、のたろんフェアと各プロジェクトの関係が良く分からない。

**(事務局)**

のたろんフェアは市民の方たちが市民活動に触れたり、交流したりすることを目的としている。今までは2日間だけサポートセンターでイベントを行ってきたが、今回はイベントのために何かをするのではなく、1年間かけてサポートセンターだけでなく、色々な形で市民活動に触れる機会を企画していきたいと考えている。4つのプロジェクトをあわせて「のたろんフェア」であると考えている。

**(加納委員)**

事業全体の名称が「のたろんフェア2007」となっているが、2月の2日間を「のたろんフェア」だと認識している人が多いので、全体とのつながりが分かりづらい。

**(佐藤委員)**

100周年事業の中で、のたろんフェアの位置づけをどう捉えたらよいか。今までののたろんフェアとどのように違うのかイメージがわからない。のたろんフェアで100周年事業をやるのか、100周年事業の中でのたろんフェアをやるのかははっきりしないと動きにくい。

**(有森委員)**

あくまでも、のたろんフェアを中心に考えてほしい。市制100周年記念は横須賀市全体が含まれるので、期間内については市の事業ほぼ全てに市制100周年という冠がつくと考えていただければよい。100周年事業としての予算はついているのでバージョンアップして開催できる。

**(事務局)**

委員の方々から記念事業全体の「のたろんフェア2007」と2月に開催する「のたろんフェア」とが分かりにくいという意見が出たので、事業全体の名称を「のたろんプロジェクト」としたい。事業全体を「のたろんプロジェクト」と位置づけ、その中で一番重要な柱となるイベントが「のたろんフェア」となる。色々な企画で機運を高めていって「フェア」を行い、3月の「完成イベント」へと結び付けていく。完成イベントは、1年間かけて行う4つのプロジェクトの報告会だと捉えていただきたい。

(井上委員)

理想としては3月に完成するのがいいのだろうが、それ以降もそれぞれのプロジェクトを継続していくことはできるのか。

(事務局)

予算がつくかどうかにもよるが、「のたろんプロジェクト」は基本的に1年ものと考えていただきたい。次年度どうなるか分からないので、「のたろんプロジェクト」に「2007」や「1st」はつけない。

(鷹野委員)

のたろんフェアは7年目になり、そろそろ方向修正した方がよいのではないか。バザーでなく、市民協働の視点を中心に据えるべきである。

(事務局)

実際のところ、「市民活動・市民協働」の企画だけで人を集められるかが問題。フリーマーケットや、どぶ板バザールと合わせることで無関心な人たちを集める仕掛けづくりができています。

(増田委員)

バザーの為だけのフェアは終わりにしたい。団体の想いを伝える場であるべき。

(事務局)

サポートセンターのスタッフからもフェアの意味を変えていかなければならないという意見がでてくる。無関心な人達に興味を持ってもらえるような方向に持っていかなければならない。新たな展開ができるように考えていきたい。

◆ 貸出し備品の提案について

(小野委員)

延長コードリールを貸出し備品に加えてほしい。既にアンプや発電機など充実した貸出し備品があるが、電源が近くにないと使えないので必要となる。また、貸出し備品一覧を利用案内見えるところに置いてほしい。

(事務局)

延長コードリールを貸出し備品に加えるとともに、貸出し備品一覧を写真でパウチするなどして、利用者に分かりやすい場所に張り出すこととしたい。

以上